

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>国語「読むこと」及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、平均正答率が低い。<指導上の課題>授業において習熟に差がある。</p> <p><学習上の課題>算数「図形」において平均正答率が低い。<指導上の課題>児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。</p>	<p>⇒ 半具体物を使った観察や構成などの活動を取り入れる【該当単元で各学年実施】</p> <p>⇒ 自分に必要な情報の読み取り方を指導する【該当単元で実施】。ドリルパーク等を活用し、その授業で行った事項の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がみられる。</p> <p><指導上の課題>全学年において、学年の発達段階に応じた振り返りを実施し、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。</p>	<p>⇒ 児童にとって必要感のある課題や、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。【R6市調査「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」の質問への肯定的回答割合90%】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語の主語・述語の関係をつえる問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、述語の直前の言葉を主語と捉えてしまう児童が多く、主語に関する理解が十分とは言えないことが考えられる。重文や複文になると主語を正確に捉えることが難しくなる傾向が見られた。</p> <p>算数「図形」における平均正答率について、本校と全国平均との差が、昨年度より1.4pt上昇した。しかし、円柱の展開図について、側面の長方形の横の長ささと底面の円周の長さが一致することの理解が定着していない傾向が見られた。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語の目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。複数の資料やデータを分類したり関係付けたりして考えることに慣れていないことが考えられる。日頃から複数の資料を関係付けて解く問題に取り組む必要がある。</p> <p>算数の道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られた。「道のりが等しいこと」と「かかった時間が違うこと」のいずれかだけしか書けていない児童が多く見られた。正答の理由を、言葉や数を用いて説明する力を身に付けさせることができるような授業を行う必要があると考えられる。</p>	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	半具体物を使った観察や構成などの活動を取り入れることや、自分に必要な情報の読み取り方を指導することは、該当単元で実施している。ドリルパーク等を活用し、その授業で行った事項の反復・習熟に取り組むことができていることがある。	ドリルパーク等のパソコンを使った反復・習熟に加え、プリントや自主学習ノートを使った反復・復習に取り組む。
思考・判断・表現	B	各教員が、受け持ちの教科において児童が主体的に課題解決に迎えるような実践を研修し、実践している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)